

## 令和3年度第3回米子市学校給食運営委員会議事録概要

- 1 開催日時 令和4年3月23日(水) 15:00～16:15
- 2 開催場所 米子市立学校給食センター会議室(米子市大谷町28番地8)

### 3 出席者(敬称略)

[米子市学校給食運営委員会委員]

内田委員(会長)、勝本委員(副会長)、松永委員、山下委員、榎尾委員、藤田委員、佐伯委員、松田委員、増田委員、築谷委員

[事務局] 学校給食課

伊藤課長、野口課長補佐、堀部係長、絹谷係長、山下栄養教諭、原学校栄養主任、景山学校栄養主任

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
  - ア 令和4年度事業計画について
  - イ 令和4年度学校給食費について
  - ウ その他
- (4) その他
- (5) 閉会

### 5 議事の概要

(注:会長あいさつ及び事務局の資料説明は省略しています。また、発言は要約しています。)

#### 議長(内田会長)

次第に従いまして、3議事の(1)令和4年度事業計画につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

#### 事務局(野口課長補佐)

そういたしますと、令和4年度事業計画について、説明させていただきます。

[令和4年度事業計画について説明を行う]

#### 事務局(野口課長補佐)

私からの説明は以上でございますが、引き続き、中学生のご飯と副食の提供量の調整につきまして、原学校栄養主任の方から説明させていただきます。

## 事務局（原学校栄養主任）

それでは、中学校給食における主食及び副食の提供量の取扱変更について、本日お配りした資料の方で説明させていただきたいと思っております。

### 〔中学校給食における主食及び副食の提供量の取扱変更について説明を行う〕

## 議長（内田会長）

ありがとうございました。

ただ今、令和4年度の事業計画及び中学校給食における主食と副食の提供量の取扱変更について、事務局から丁寧な説明がありました。何かお聞きになりたいこと、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

## 佐伯委員

以前送っていただいた学校給食アンケートを見ていて、多すぎるというような量に関するコメントがとても多いなあと思っていました。今は多様性を認めて、個に対応する時代になってきているので、多くの先生方が完食を勧め難いということを書いておられました。

なので、中学校の段階から決められた量より少しでも変動させながらやっていってくださるというのは、とてもいいことだと思っています。

令和4年度には、他の中学校も残量を検証されるということなので、より数値的なものが出てきて、生徒さんの実態に合った配缶量というか、量になっていけばいいのかなあと思いますし、それが小学校の方にも下りて行った方がいいのだろうなあと感じています。

体格もずいぶん同じ学年でも差がありますし、育ってきた環境も全然違いますので、とても個に対応することは難しいのですが、それでもその年度の子どもの体格を勘案しながら、少しでもそれに合った量になっていけばいいのかなあと思います。今回はとてもいい提案をしていただいたなあと思っております。

また次年度、令和4年度の残量とかを見ながら検証していただいて、その結果がお聞きできればなあと思っております。よろしく願います。

## 議長（内田会長）

貴重なご意見、ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

## 勝本委員

自分は弓ヶ浜中学校に赴任して2年目になりますけども、赴任当初は残菜がすごく多く、逆に前任校は食缶が空っぽになるほど食べていましたので、その違いは何かと現場の目からいろいろ考えてみました。

ひとつは、体格差とかに関して言うと、数値的な根拠で今回のように食の量を調整していくということは、客観的なデータとして非常に理にかなった合理的な考えだと思います。

一方、現場でできる努力を考えたときに、前任校で食べきれていた理由が何だろうかと考えたときに、生活習慣とか食習慣、あるいは睡眠とかいろんな幅広いことについて、保健委員会とか生徒会の委員会とか養護教諭が連携して取り上げていました。

その中の1つとして食というものが取り上げられ、朝食を食べないで学校に来る子どももいましたので、そういった食習慣の見直しとかもやっていきながら、活動期、成長期の子どもとして自分自身がしっかり食を取らないといけないという意識を持ちながら、という部分もありました。

また、残菜についての活動は委員会がよくやりますので、純粹に子ども達は、しっかり食べれたねとか、今日は空っぽになったねという、中学生でもすごく喜んで、嬉しそうにしたり、シール付けられると頑張るところはあります。

残すなどかそういっただけの指導では、なかなか難しいのですが、そういったかたちでできるようになりました。

また、弓ヶ浜中学校では、今年度、残菜が減ってきた時期がありまして、その原因を考えてみたのですが、文化祭でSDGsについてけっこう取り組んでいました。

子ども達がSDGsに取り組んでいる山陰地方の企業とかを調べたりとか、17の目標の中で食品ロスについて取り上げたりしました。コロナ禍でしたけれども、取材をしながら、3分間ぐらいの番組を作りました。その中のあるクラスが食品ロスに訴えるような番組を作りました。当然全校生徒の目に触れました。番組を作ったクラスが発信元になったのですが、残菜がなくなっていきました。それを給食委員会が取り上げることで、学年とか、全校に拡がっていくような感じになりました。本当に残菜の多い学校でしたけど、ちょっとずつ改善していくようになっていきました。

当然その陰には、給食に関して栄養主任さんに力のある掲示物を作っていただき、日々給食をすごく身近に感じたり、地元食材を取り上げながら興味を持たせるような指導をしていただきました。

そういう中で、子ども達が残さず食べていくことは自分のためになる、体の成長のためになるという自覚ができたのかなあと思っています。まだまだの子も当然います。偏食の子もいますし、逆に給食でなんとか食べつないで頑張っている子どもも実際にはおります。そういったいろんな事情のある子もいるのですが、全体として残量が減ってきたということには、学校現場の委員会とか、子ども達の取組が大きいなあと思っています。

#### **議長（内田会長）**

ありがとうございました。

現場の努力といいましょうか、すごいなあと感じました。

小学校もたくさんいい取組をしていると思いますが、藤田校長先生、小学校の実情だとか、何かありませんでしょうか。義方小学校もたいへん残菜の少ない素晴らしい学校だと思いますが。

#### **藤田委員**

小学校の方ですけど、内田校長先生が最初の挨拶で言われたように、給食の様子が様変わりしたというか、子ども達が黙々と黙って食べています。今日も2年生の教室に行ったのですが、しゃべり声ひとつないのです。そんな空間の中で食べていますので、おしゃべりしなくて食が進んでいるのか、それとも子どもによっては友達と会話をしながらの方が、食が進む子どもがあったりとか、一概には言えないと思いますけれども、担任の方ができるだけ残菜が減るような声掛けをしたりだとか、あと、義方小学校は山下先生に担当していただいており、いつも明るく元気に来ていただいて指導していただいております。担任にはできないいろいろな指導をしてもらえるということも大きいかなという感じはしています。

コロナが収まって少しは会話をしながら子ども達が食べられる姿を早く見たいなあと思っています。ここ2年間ほんとは見ていないというか、みんな黒板の方を向いて黙って黙々と食べていますので、そろそろ何とかならないかなあというふうに思っています。楽しい給食であってほしいなあというふうに個人的には思っています。

### 議長（内田会長）

ありがとうございました。おっしゃるとおりだと思います。2年間みんな本当によく頑張って過ごしています。

それと、給食訪問でのいろんな取組、それから子ども達の食への意識の高まりというのを、すごくいろんな場面を通して感じます。

あと、福米西小学校では、星空舞について訪問していただきました。その時の子ども達の受け止めといいましようか、そこからお米の大切さというのを子ども達も改めて感じていたようでした。そのような様々な取組が今の残菜だとかが減っていることにつながっているのかなあとも思いますし、ますます、事務局の取組、こういう変更点についてやっていくことで、フードロスもそうですし、やはり子ども達の健康の増進というところにも向かっているのではないかなあというふうに私も感じております。

他にはございませんでしょうか。

### 増田委員

ここで言うべきか、3番のその他で言うべきかちょっと迷ったのですが、今、フードロスとかの話が出たので、話させてもらいます。

家の子は中学校に通っているのですが、私が聞いた狭い範囲の中での話ですけど、給食の時に未開封の牛乳を最後に、封を開けて食缶に流し、ゴミだけ回収すると聞きました。手を付けなかったものを食缶に流して回収するというので、すごく心が痛むと言っていました。冷蔵のものなので使い回しとか、持って帰るということは難しいかもしれないのですが、フードロス、SDGsとかこれだけ言われているのに、実際現場では食べ物を無駄にしている。どうしてもお腹に入らなければ仕方がないのかもしれないのですが、無理して飲むよーうにとはなかなか言えないと思うのですが、心が痛むようなことを子ども達にさせるというのは、やはり改善方法を考えた方がいいのではないかなあと思います。

他の学校ではどうされているのかもすごく気になりますし、米子市で何か決定していることがあるのか分からなかったのですが、家の子が通っている中学校ではそういうことをしているみたいです。

### 議長（内田会長）

全クラスですか。

### 増田委員

全クラスみたいです。

飲み残し、全部飲めなかったら食缶に移して回収しているというのは聞いていたのですが、未開封のものもそうしていると聞きました。

### 議長（内田会長）

初めて聞きました。

### 勝本委員

中学校では、基本的には、まず飲めないアレルギーの子の牛乳は当然除去してもらっています。季節的に言うとやっぱり冬場がけっこう余っています。お腹の調子とかいろんなことがあると思います。学校によってだと思いますが、そのまま返させて主事さんが処理をしている学校もありますし、子ども達が活動の中でやるケースもあると思います。

要は、持ち帰りというのはなかなかできませんので、あとは学校によってその中でやりくりをしないといけません。聞いたことがあるのは、何かの活動の時、例えば駅伝がずっとさ

れている時に、若干保管しておいたものを、もう捨てられてしまうのだったらということで、保護者の方には文書で了解を得た上で、補食のように使われていた学校さんもあると聞いています。

ただ実際に現場の子ども達が封を切ってしまうことはありますが、うちの学校の場合は逆に、牛乳が飛び散りそれに触れるといけない子がいるので、現場ではさせないようにしています。牛乳のアレルギーで敏感の子がいた場合に、ちょっと落ちているだけで、飛び散っただけで、反応を起こす子がいますので。そこはちょっと学校によってなのかなと思います。

#### **藤田委員**

おそらくそういう学校は多いと思います。うちもそうしています。今まで管理職になって3校回りしましたが、すべてその対応です。結局、残ってしまった時に、よく子ども達同士で、例えばジャンケンをして飲んだりすることは、昔も今もあると思うのですが、それでも残る場合があります。残ったものについては、職員室に持って降りて教員が持って帰るわけにはいかない状況が当然ありますので、そうなったらもう処分するしかありません。

それは、学校現場でも教員としても心苦しいところは、言われたようにそのとおりだと思いますけれども、例えば、そのあと余ったものを回収してもらえらんだら、なんかの形で再利用することは可能かもしれませんが、それが無い状況の中では、もう処分するしかないというのが現状かなあという感じはしています。

結局、教員が持って帰ることも、保護者の方からいただいたお金で買ったものなので、持って帰ることが当然できない状況の中で、中学校で駅伝とかなんかで使えるのだったらいいのですが、小学校現場では使える場所がありませんので、残念ながらそうやって処分を、義方小学校でも、今でもしているということです。前の学校でもそうでした。

#### **増田委員**

そのあたりを米子市の方で一括してシステム作りができるとか、何か希望があれば、できるようなことがあれば、改善してもらえたらいいなあと思います。

#### **事務局（絹谷係長）**

食育の担当係長をしています絹谷と申します。よろしくお願いたします。

今おっしゃったようにフードロスに関係で国がものすごい勢いで動いています。フードバンクとかの仕組み作りを具体的に始めたところで、どういうのがほんとうに使える仕組みなのか、国もまだ見定めていないという状況です。ただ情報はけっこう下りてきていますので、米子市の実態に合って、子ども達や現場に合ったような回収方法だとか、もらってくれる人がいないといけないとか、品質はどうするんだとか、いろんな問題がある中で、フードバンクというのも一つの解決策になるんじゃないかという情報が下りていきる段階です。まだまだ形は定まっていないのですが、国から通知がきていますので、それを今見ながら勉強はしているところですけども、実際の施策に反映するとなると、なかなか困難な面もありますけども、おっしゃったようなところは世の中の強い流れが来ていますので、注視していきたいとは思っております。

#### **増田委員**

ありがとうございました。品質の面でやっぱり安定した、冷蔵のものだから品質面で保管とか難しいと思うのですが、なにかうまくやっていただけの方法があれば、是非検討していただきたいと思います。

**議長（内田会長）**

ありがとうございました。その他、またこれに関連することなど、ございますでしょうか。

**議長（内田会長）**

それでは、改めまして、令和4年度事業計画についてと中学校給食における主食及び副食の提供量の取扱い変更について、それにつきましては承認していただけるということで、よろしいでしょうか。

**各委員**

はい。

**議長（内田会長）**

はい、大きなうなずき、ありがとうございます。

そういたしますと、ただ今いただいた意見を参考にさせていただいて、令和4年度には学校給食をさらに良いものしていただくようお願いいたします。そして、この審議は終わらせていただこうと思います。

次に、議事の（2）令和4年度 学校給食費について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局（景山学校栄養主任）**

では、令和4年度 学校給食費について、説明させていただきたいと思います。

**[令和4年度学校給食費について説明を行う]**

**議長（内田会長）**

はい、ありがとうございました。

令和4年度学校給食費についてご説明がありましたが、何かご質問等はございませんでしょうか。

**議長（内田会長）**

令和4年度のことは説明があったのですが、それ以降のことはいかがでしょうか。何か見直しはありますでしょうか。

**事務局（野口課長補佐）**

本日お配りした学校給食費の推移という資料を見ていただきたいのですが、ほとんど毎年、主食と牛乳は上がりますので、その分年々副食に充てられる額が下がってきております。

また、今の給食費の金額小学校280円、中学校330円についても、令和4年度で5年間据え置くということになります。先程、景山学校栄養主任の方からも話がありましたが、入札などで安く良いものを調達できるように努力をしまして何とか5年間値上げをせずにやっているという状況でございますが、それにも限界がございますので、令和5年度は、そろそろ値上げも検討していかなければならない時期にきているのかなあと考えているところでございます。

**議長（内田会長）**

ありがとうございます。

5年も上がらないというのは、すごいことではないかと思えます。

### 事務局（野口課長補佐）

それから、ひとつ言い忘れましたけど、市長さんが選挙公約などでも学校給食における地産地消ということを掲げられたということもありまして、金額的にはそう大きな額ではないのですが、事業計画のいきいきこめっこ食育推進事業のところでも説明しましたとおり、大山どり、境港サーモン、大山こむぎの購入につきましては、保護者の方からいただいた給食費だけではなくて、ふるさと納税という市への寄付金を積み立てている基金を活用させていただいて、調達させていただいております。

### 議長（内田会長）

少し補助もある中での値上がりなしということになっているようです。

他には、いかがでしょうか。

### 増田委員

大山こむぎなんですけど、ふるさと納税を使っていると以前この会で聞いていたのですが、それが月1回から毎回になって、また家の子の話ですみませんが、やっぱり評判がいいみたいです。大山こむぎの方がもっちりしていて美味しいと聞きますので、大山こむぎの方がより馴染みもあって食べやすいのではないかなと思います。毎回になってよかったと思います。ありがとうございます。

### 議長（内田会長）

他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

他にご意見がないようですので、令和4年度の学校給食費については、引き続き、小学校は280円、中学校は330円ということをお願いすることに決定させていただいても、よろしいでしょうか。

### 各委員

はい。

### 議長（内田会長）

はい、ありがとうございます。

そういたしますと、議事の（3）その他についてですが、事務局から何かございますか。

### 事務局（伊藤課長）

事務局で用意したものは、特にはございません。

### 議長（内田会長）

はい、分かりました。

では、続けたいと思います。

次に、4のその他についてですが、何かありますでしょうか。

### 築谷委員

家の子は小学2年生ですが、家の子のクラスはみんなが完食で、特に家の子は頑張っているのか、シールを完食シートみたいなのに毎日毎日貼って、貼るところがないみたいな感じで食べているようです。先程の牛乳に関する素朴な疑問ですが、牛乳が残っている、飲んでいないというのは、市の方では把握をされているのですか。残った量というのは、把握はされているのですか。

### 事務局（山下栄養教諭）

牛乳は先程おっしゃっていただいたように、食缶の中に移して液体として給食センター帰ってきます。食缶というのはお汁が入っていた丸い食缶です。それにはお汁の残食も入って

います。米子市の残食は固形量で、ざるとかを使用して具だけを汲み上げて計っています。なので、牛乳としてどの学校に何キロ残っているということまでは、把握は実際にはできていないというのが現状です。

#### **築谷委員**

それが汁なのか、何なのかというのは分からないということですね。

#### **事務局（山下栄養教諭）**

はい。あと、ご飯とかの食缶を各学校できれいに洗ってくださるのですが、その洗う時に水を入れて、こさげたお米とかもいっしょに入ってきたりするので、こういう水分量と牛乳と汁の水分量とがいっしょに流れてしまうので、厳密に牛乳だけを計るということは難しいことだと思います。

学校では、牛乳を排水溝に流してしまうと環境汚染にもなりますし、夏場は特に匂いもしますので、処分に困っていると聞いています。なので、残った牛乳は食缶に入れて給食センターに返していただいております。

#### **築谷委員**

先程、牛乳は値上がりしたという話がありましたので、残った牛乳が、小っちゃい単位で考えると、クラスで何本残ったというのが把握されているのかなあと考えたもので。値上がりした分、もったいないなあと単純に思ってしまったもので。それが分かれば、牛乳は調整が難しいですが、調整の仕方があるのかなあと考えたので。すいません、ありがとうございます。

#### **議長（内田会長）**

先程おっしゃられた国のフードバンクの施策がどのようになっていくかにも関わってくるのかなあとも思いますし、今すごく先駆けた提案をしていただいているというふうに思います。国の動きと、今、委員のみなさんが疑問に思って、これはちょっとSDGsに引っかかると思われたようなところが、すごく先駆け、先行しているので、そういう制度作りが急がれるところになるのかなあと思います。

米子市さんとしてもできる範囲で、少し目に見える形で何かできることがあれば、またお知らせいただいて、周知していただければいいのかなあというふうに思います。

#### **事務局（山下栄養教諭）**

私が米子市に来た時に、中学生の牛乳の残量がものすごく多いと思いました。数年前から、同じ中学校区の小学校を持たせていただいて、小学校の時に牛乳とか、カルシウムの大切さとかを指導をしていくと、その子達が成長していき、中学生になった時、牛乳の残食がなくなっていくようになっていきます。

もちろん、残ったものをどうするかということも考えていかなければいけないのですが、残さないように指導するということが大事だと思います。しかし、今コロナ禍なので欠席者の分の牛乳がものすごく多くなっています。コロナが落ち着いてから、本当に自分に与えられた量を全部飲み切るというような指導も同時にしていかなければならないと思います。勝本先生が言われたのですが、自分に必要なものだから飲もうと自覚を持たせる食育もしていかなければいけないと思います。

#### **議長（内田会長）**

残ったものをどうするかというよりも残さないにはどうするかということも教育ではないかなあ、食育ではないかなあということ強く感じました。いい言葉だと思います。ありがとうございます。他にはいかがですか。



## 佐伯委員

コロナのことがあって分散登校とか、それから学年、学級閉鎖というのが次々行われて、その中で給食を継続していただいて、食べるということについて不安に思われるご家庭もあったかもしれないですが、反対にとってもありがたい、子ども達の食が一食保障されて、ありがたいという気持ちの保護者さんもたくさんあったと思います。

で、給食センターの方で、献立名で何か工夫があったのか、予定どおりの献立で作られたのか。分散登校で給食時間に差が付いたので、冷めるというようなこともありますし、何か工夫があったのか。それから急遽学年が閉鎖になったりすると、すごい数の変動があって、東洋食品さんの方が今回すごくご苦労されたのではないかなあとずっと案じていましたので、何かその辺の経過でお聞きできるようなことがもしあれば、お話ししていただきたいなあと思います。

## 事務局（伊藤課長）

分散登校の間の給食というのは、報道とかでご存じだったり、あとは学校現場の方でご存じだったりするかと思うのですが、実際に分散登校を実現させるために給食時間が40分繰り上げになっておりました。ですので、40分早く給食を送り出すということになりました。調理作業にかかる時間がもう限界でしたので、副食、おかずを一品減らすというような形で対応させていただいておりました。その節は大変ご迷惑をおかけしまして、申し訳ございませんでした。

で、実際そのように対応させていただいて、ほぼ2週間、10日間ですけども、分散登校の期間がありましたが、これ以上延びるようだったら、作業工程とか、使用食材を見直して、なんとか一品減らさずに通常どおりのものを出すように計画はしておりましたが、幸いにして予定どおりといいますか、最初の10日間で分散登校が終わりましたので、そのような対応をすることはありませんでした。あってほしくないですけど、次に万一そのようなことがありました時には、対応方法として、今回の反省を踏まえいろいろ工夫させていただこうかなあというようなところはございます。

先程おっしゃっていただいたように委託業者の東洋食品さんの方には、大変なご苦労をかけておまして、通常でも6時半ぐらいから出勤しておられるところ、それに加えてコロナ禍ですので、社員さんの方も、社員さんご自身の家庭が自宅待機をしなければいけないような、子どもが休みます、PCR検査ですとかいったような、人も減る中、頑張らせていただいておりますので、その辺のことをこの場におられる皆さんにはぜひともご理解いただきたいというふうには思っております。

## 佐伯委員

ありがとうございました。

## 議長（内田会長）

他にはございますか。

## 事務局（伊藤課長）

そうしますと、委員のみなさんからのご意見が出終わったかなというところで、この委員会の方では都度都度ご報告させていただいております、平成30年度にスタートしました「いきいきこめっこプロジェクト」につきまして、令和4年度の新たな展開につきまして、山下栄養教諭の方から少しお話をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

## 議長（内田会長）

皆様、いかがでしょうか。

各委員

はい。

議長（内田会長）

それでは、山下栄養教諭、お願いいたします。

事務局（山下栄養教諭）

平成30年度から取り組ませていただいております「いきいきこめっこプロジェクト」について、令和4年度の事業計画についてお話をさせていただきたいと思います。

〔「いきいきこめっこプロジェクト」の令和4年度の新たな展開取組について説明を行う〕

議長（内田会長）

「いきいきこめっこプロジェクト」の令和4年度の新たな展開取組の説明をいただきました。何かご意見・ご質問等はございませんでしょうか。

議長（内田会長）

ないようでしたら、最後に、事務局から何か連絡事項等がありますでしょうか。

事務局（伊藤課長）

そうしますと、次回の運営委員会ですけれども、4月下旬から5月中旬頃の開催を考えております。その時には、令和3年度の事業報告をさせていただくことになろうかと思っております。

また事前に会議資料をお配りしたいと思いますので、そちらの方のお目通しもよろしくお願いいたします。

議長（内田会長）

ありがとうございました。

今回で令和3年度の会議が終了するわけでございます。皆様のご協力本当にありがとうございました。毎回スムーズに会議を進めていただきまして、本当にこの場を借りましてお礼を申し上げます。

では、以上をもちまして、令和3年度第3回米子市学校給食運営委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

事務局（全員）

ありがとうございました。